

ABC検診

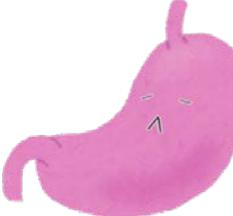
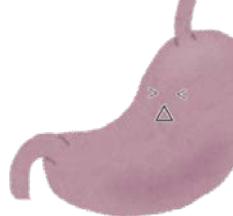
胃がんABC検診とは、ピロリ菌抗体検査とペプシノーゲン検査を組み合わせることで胃がんになりやすいかどうかを調べる検査です。

血液検査で胃がんになりやすいリスクを総合的に判定します。

採血でバリウム検査同等以上の胃がん健診が簡単に検査できます。

※逆流性食道炎のお薬（PPI）を服用されている方は、ペプシノーゲン法の検査が正しく判断できませんので、可能であれば2週間休薬して下さい。

検査費用：2000円

	正常	異常		
ABC分類	A	B	C	D
ピロリ菌	陰性 (-)	陽性 (+)	陽性 (+)	陰性 (-)
ペプシノーゲン	陰性 (-)	陰性 (-)	陽性 (+)	陽性 (+)
胃の健康度	 健康な状態です	 ピロリ菌感染はありますが、胃粘膜の萎縮は進行していません	 ピロリ菌感染があり、胃粘膜の萎縮は進行しています	 胃粘膜の萎縮が進み、ピロリ菌が住めなくなった状態です
管理方法	胃がんリスクは低いですが、自覚症状がある時は医療機関を受診して下さい。	胃内視鏡検査、及びピロリ菌除菌治療が必要です。 その後、1年に1回の胃内視鏡検査をお勧めします。 ※目安となりますので具体的には主治医と相談して下さい。		
胃がん発生リスク	非常に低い	やや高い	高い	非常に高い
胃がん発生頻度/年	ほぼ0	1,000人に1人	400人に1人	80人に1人